

現在当科では、以下のような臨床検体を用いた研究を行っています。

研究課題：表皮下水疱を呈する自己免疫性水疱症における自己抗体の役割

研究責任者：皮膚科学 小宮根真弓

研究の概要：

(1) 意義

皮膚を構成する分子に抗体ができて皮膚に水疱を形成する疾患群を自己免疫性水疱症と言いますが、この疾患群には多数の疾患が含まれ、表皮と表皮をつなぐ分子にたいする自己抗体や真皮と表皮を結合する分子に対する自己抗体などが同定されています。表皮と真皮の間に水疱（表皮下水疱）を形成する疾患としては、水疱性類天疱瘡、粘膜類天疱瘡、後天性表皮水疱症などいくつかの疾患が属しています。近年、研究技術の進歩により、表皮と真皮を結合する分子に対する自己抗体や、真皮を構成するコラーゲンなどに対する自己抗体などが多数検出できるようになりました。この研究では、それらの自己抗体を患者さんの血清中から分離精製して、それが表皮細胞にどのような影響を与えるかを調べることで、水疱症の発症機構の手がかりを得ようと考えています。

(2) 目的

抗体は、γグロブリンという血液中にあるたんぱく質でできています。表皮下水疱を呈する疾患群の患者さんの血清から自己抗体を含むγグロブリンを分離してそれが表皮細胞に与える影響を調べ、さらに、保存した血清中の自己抗体が、皮膚のどの部位に結合するのかを、免疫蛍光抗体法にて検討したいと考えています。その結果、水疱性疾患の発症機序の一端が明らかになると考えています。

(3) 方法

この研究に用いる血清は、当科における臨床研究“自己免疫性水疱性疾患のライブラリー構築”にて、文書による同意を得て保存されているものです。血清は保存の際に、簡単には誰の血清かわからないように連結可能匿名化という作業を経ています。保存された患者さんの血清よりγグロブリンを分離精製し、培養表皮細胞に添加することにより、正常な表皮細胞にどのような変化が生じるのかを、ウェスタンブロット法などの手法を用いることにより検討します。また、その結果を確かめるため血清中の同じような変化が認められるかどうかを検討します。

さらに、健常人から得られた皮膚に患者さんの血清あるいは患者血清から精製したγグロブリンを反応させて、正常皮膚のどの部分に患者血清中の自己抗体が結合するのかを、蛍光で標識した抗体を用いて免疫組織学的に検討します。

研究者

7 研究者等の所属、職名、氏名			
皮膚科学	教授	小宮根真弓	
皮膚科学	准教授	神谷浩二	
皮膚科学	准教授	佐藤篤子	
皮膚科学	助教	杉原夏子	
皮膚科学	助教	中野尚美	
皮膚科学	助教	安藤貴代	
皮膚科学	非常勤講師	鈴木正之	
皮膚科学	非常勤医員	岡田寛文	
皮膚科学	リサーチアシスタント	木村 未歩	
皮膚科学	ラボランチン	國府加奈子	

こちらの研究は対象となる方のご希望があれば、個人情報保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料とを閲覧、または入手することができますのでお申し出ください。

連絡先

自治医科大学皮膚科学

教授 小宮根真弓

T E L : 0285-58-7360

F A X : 0285-44-4857

苦情の窓口

自治医科大学附属病院 臨床研究センター管理部

T E L : 0285-58-8933